

社会福学科 社会福祉専攻 2年 前期 専門科目

1. 社会福祉原論 I
2. 社会調査の基礎
3. 社会福祉援助技術論 V
4. 地域福祉論 I
5. 社会保障論 I
6. 保健医療サービス
7. 権利擁護と成年後見制度
8. 相談援助演習 III
9. 相談援助実習指導 III
10. 相談援助実習
11. 医療・精神科ソーシャルワーク論
12. 臨床美術の実践 I
13. 表現アート演習 II
14. カウンセリング基礎演習
15. 心理アセスメント基礎実習
16. 発達心理学
17. 人格心理学
18. 社会心理学
19. 心理学研究 I

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: 社会福祉原論 I			担当教員 氏名: 松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門科目	講義	必修	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かして授業を行う					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の理念と意義について理解する ・社会福祉の対象と援助の体系および方法論について理解する ・社会福祉固有の専門性と倫理について理解する 					社会福祉 歴史 制度
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力	社会福祉の理念と必要性について理解することができる				
C 論理的思考力	社会政策や社会福祉の供給体制について理解することができる				
D 問題解決力	理論を活用して実践に結びつける力を身につける				
F チームワーク・リーダーシップ	先人による福祉実践から彼らのリーダーシップや福祉観を考察する				
G 倫理観	政策決定(プロセス含)における倫理観の必要性に気づく				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: その他とは授業への姿勢、態度のことである。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①わが国における福祉制度の概念と理念			【事前】①当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
②福祉政策の概念と理念			【事前】②当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
③福祉制度と施策の関係			【事前】③当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
④福祉政策と政治の関係			【事前】④当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑤福祉政策の主体と対象			【事前】⑤当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑥福祉の原理をめぐる理論			【事前】⑥当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑦福祉の原理をめぐる哲学と倫理			【事前】⑦当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧前近代社会と福祉			【事前】⑧当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑨近代社会と福祉			【事前】⑨当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑩現代社会と福祉 I (欧米)			【事前】⑩当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑪現代社会と福祉 II (日本)			【事前】⑪当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑫需要とニーズの概念			【事前】⑫当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑬資源の概念			【事前】⑬当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑭福祉政策と社会問題			【事前】⑭当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑮まとめ			【事前】テキスト前半、資料の確認 【事後】授業の復習	【予習】30分 【復習】30分	
使用テキスト: 現代社会と福祉 著者: 川村匡由 島津淳 佐橋克彦 西崎緑 出版社: 電気書院 ISBN: 978-4-485-30411-2			その他参考文献など: 「厚生労働白書」厚生労働省		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 事前・事後学習において、テキストだけでなく、参考文献や授業で紹介した本、論文等にも目を通してください。					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名: 社会調査の基礎				担当教員 氏名: 松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			社会福祉士としての実務経験をもとに調査の実際を事例を交えながら授業する。			
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
福祉専門職として身につけておくべき利用者や地域のニーズを把握し課題を明確化するための手法である社会調査の基本的な知識と技術を習得し、また、調査における倫理や個人情報保護についても理解する。				社会調査、倫理と個人情報、質問紙、ソーシャルワーク研究		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (短短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.		
A 知識・理解力		社会調査の基本的な知識と調査における倫理や個人情報保護について理解することができる。				
B 専門的技術		社会調査の基本的な技術を習得する。				
C 論理的思考力		社会調査に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。				
D 問題解決力		社会調査法を用いて、利用者や地域の課題を解決する方法を理解することができる。				
G 倫理観		尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: %	発表: 20 %	実技: %	その他: 30 %		
特記事項: 「その他:30%」では、授業態度について評価する。 本科目は、アクティブラーニングの一環として、社会調査を実際に行い、授業において調査結果の発表を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時で実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 別に定めた日時で実施するテストに評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション～社会調査の意義と目的～			【予習】テキスト第1章を読む 【復習】①の復習		【予習】120分 【復習】120分	
②社会調査の対象と統計法の概要			【予習】テキスト第2章を読む 【復習】②の復習		【予習】120分 【復習】120分	
③社会調査における倫理と個人情報保護			【予習】テキスト第5章を読む 【復習】③の復習		【予習】120分 【復習】120分	
④量的調査の方法①～全数調査と標本調査～			【予習】テキスト第3章第1節1を読む 【復習】④の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑤量的調査の方法②～横断調査と縦断調査～			【予習】テキスト第3章第1節2を読む 【復習】⑤の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑥量的調査の方法③～自記式調査と他記式調査～			【予習】テキスト第3章第1節3を読む 【復習】⑥の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑦量的調査の方法④～測定～・中間まとめ			【予習】①～⑥の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑧量的調査の方法⑤～質問紙の作成方法と留意点～			【予習】テキスト第3章第2節を読む 【復習】⑧の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑨量的調査の方法⑥～調査票の配布と回収～			【予習】テキスト第3章第3節を読む 【復習】⑨の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑩量的調査の方法⑦～調査の集計と分析～			【予習】テキスト第3章第4節を読む 【復習】⑩の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑪質的調査の方法①～観察法～			【予習】テキスト第4章第1節を読む 【復習】⑪の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑫質的調査の方法②～面接法～			【予習】テキスト第4章第2～5節を読む 【復習】⑫の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑬質的調査の方法③～記録の方法と留意点～			【予習】テキスト第4章第6・7節を読む 【復習】⑬の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑭質的調査の方法④～データの整理と分析～			【予習】テキスト第6章を読む 【復習】⑭の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑮社会調査の実施にあたってのITの活用方法・まとめ			【予習】⑧～⑭の復習		【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 新・社会福祉士養成講座 第5巻「社会調査の基礎」中央法規 ISBN978-4-8058-3760-3			その他参考文献など: 「社会調査」のウソ・リサーチ・リテラシーのすすめ 谷岡一郎 著 文藝春秋			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。また、2年生にとっては卒業研究に必要な知識と技術であるため、できるだけ多くの学生の受講を期待します。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 社会福祉援助技術論 V			担当教員 氏名: 清水 剛志						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか:			子ども、高齢者、障害者等に対する相談支援を行ってきた経験をもとに、対象者とその取り巻く環境に対す る支援のあり方を検討する演習を行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
・事例検討をとおして、ソーシャルワークスキルを向上させる。					ソーシャルワークスキル 権利擁護 ネットワーキング ストレングス 機能的アプローチ				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			ソーシャルワーク技術について知識を深めることができる						
B 専門的技術			実践現場で活かせる援助技術を身につける						
C 論理的思考力			対象を多角的にとらえ、リアルニーズの把握と社会資源に結びつける						
D 問題解決力			事例検討をとおしてソーシャルワークの実践力を身につける						
G 倫理観			相談援助職の専門的役割や使命とともに倫理綱領を理解し実践活動ができる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	30 %
特記事項:その他は、授業出席、態度を評価する。(事例検討後の感想や気づき等のレポート提出も含む。)									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ディベート</u> グループワーク <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:第8回授業後に中間テスト(レポート形式)、第15回後に期末テスト(レポート形式)									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:講義内での講評									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な 時間(分)				
①オリエンテーション ソーシャルワークの機能について									
②事例検討:ケアマネジメントの活用 スクールソーシャルワーク				【復習】事例に関する感想や気 付き等をまとめ	【復習】30分				
③事例検討:ケアマネジメントの活用 スクールソーシャルワーク				【復習】事例に関する感想や気 付き等をまとめ	【復習】30分				
④事例検討:ネットワーキングの活用 触法障害者への支援				【復習】事例に関する感想や気 付き等をまとめ	【復習】30分				
⑤事例検討:ネットワーキングの活用 触法障害者への支援				【復習】事例に関する感想や気 付き等をまとめ	【復習】30分				
⑥事例検討:社会資源の利用・開発・調整の活用 高齢者の孤独死防止への支援				【復習】事例に関する感想や気 付き等をまとめ	【復習】30分				
⑦事例検討:社会資源の利用・開発・調整の活用 高齢者の孤独死防止への支援				【復習】事例に関する感想や気 付き等をまとめ	【復習】30分				
⑧中間振り返り 事例検討									
⑨事例検討:システム論的アプローチの活用 リストラにあった中高年と家族への支援				【復習】事例に関する感想や気 付き等をまとめ	【復習】30分				
⑩事例検討:システム論的アプローチの活用 リストラにあった中高年と家族への支援				【復習】事例に関する感想や気 付き等をまとめ	【復習】30分				
⑪事例検討:ストレングスアプローチの活用 知的障害者への就労支援				【復習】事例に関する感想や気 付き等をまとめ	【復習】30分				
⑫事例検討:ストレングスアプローチの活用 知的障害者への就労支援				【復習】事例に関する感想や気 付き等をまとめ	【復習】30分				
⑬事例検討:機能的アプローチの活用 身体障害者への生活支援				【復習】事例に関する感想や気 付き等をまとめ	【復習】30分				
⑭事例検討:機能的アプローチの活用 身体障害者への生活支援				【復習】事例に関する感想や気 付き等をまとめ	【復習】30分				
⑮まとめ 事例検討									
使用テキスト: 相談援助の理論と方法Ⅱ 中央法規 ISBN:978-4-8058-5104-3				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 地域福祉論 I			担当教員 氏名: 中村 尚紀						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 地域福祉の基礎を身に付けるため、実際の地域活動の事例等を用いて地域構成の枠組みや社会福祉士の役割を学ぶ。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
地域福祉は、現在日本の社会福祉において重要視されている分野である。地域福祉の歴史や概念、新しい地域福祉の展開、地域ケアと自立支援のための方法論や近年の地域福祉の動向と課題を学ぶ。						地域福祉、ボランティア、エンパワメント、アドボカシー、ソーシャルインクルージョン			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9				
A 知識・理解力			地域福祉に関する知識を体系的に理解することができる。						
B 専門的技術			地域福祉を実践できる能力を習得する。						
C 論理的思考力			地域問題を複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。						
D 問題解決力			地域問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。						
G 倫理観			ソーシャルワークの価値と倫理を基本とし、実践活動を展開する。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	10 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: 上記「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワークとプレゼンテーションを行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは毎回提示、中間レポートは第7回目、期末はレポート別に定めた日時に実施。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートと中間レポートと期末レポートはABCD評価で採点し返却する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①地域福祉の考え方と背景 I				{予習} I の地域福祉とはの1~3を読んでくる {復習} I の地域福祉とはの1~3をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
②地域福祉の考え方と背景 II				{予習} I の地域福祉とはの4~5を読んでくる {復習} I の地域福祉とはの4~5をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
③地域福祉の考え方と背景 III				{予習} I の地域福祉とはの6~7を読んでくる {復習} I の地域福祉とはの6~7をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
④地域福祉の理念と理論				{予習} II の地域福祉の理念と概念の1~2を読んでくる {復習} II の地域福祉の理念と概念の1~2をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
⑤地域福祉の構成要素				{予習} II の地域福祉の理念と概念の3を読んでくる {復習} II の地域福祉の理念と概念の3をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
⑥社会的包摂の概念と構成要素				{予習} II の地域福祉の理念と概念の4を読んでくる {復習} II の地域福祉の理念と概念の4をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
⑦ボランティアの概念と類型				{予習} II の地域福祉の理念と概念の5を読んでくる {復習} II の地域福祉の理念と概念の5をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
⑧協働・パートナーシップによるネットワークの形成				{予習} II の地域福祉の理念と概念の6を読んでくる {復習} II の地域福祉の理念と概念の6をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
⑨エンパワメントとアドボカシーの概念と構成要素				{予習} II の地域福祉の理念と概念の7~8を読んでくる {復習} II の地域福祉の理念と概念の7~8をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
⑩日本の地域福祉の展開				{予習} III の地域福祉の発展の4~6を読んでくる {復習} III の地域福祉の発展の4~6をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
⑪海外の地域福祉の展開				{予習} III の地域福祉の発展の1~3を読んでくる {復習} III の地域福祉の発展の1~3をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
⑫地域福祉の政策展開 I				{予習} IV の地域福祉の政策展開の1~3を読んでくる {復習} IV の地域福祉の政策展開の1~3をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
⑬地域福祉の政策展開 II				{予習} IV の地域福祉の政策展開4~6を読んでくる {復習} IV の地域福祉の政策展開の4~6をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
⑭地域福祉の政策展開 III				{予習} IV の地域福祉の政策展開7~8を読んでくる {復習} IV の地域福祉の政策展開の7~8をレポートでまとめる。	{予習} 120分 {復習} 120分				
⑮まとめ				{予習} I からIVを読み地域福祉論 I の全体を復習する。		{予習} 240分			
使用テキスト: 新版よくわかる地域福祉(ミネルヴァ書房) ISBN978-4-623-08592-7				その他参考文献など: 地域福祉論 岡村重夫 著 (光生館)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 地域福祉の基礎を学んでいきます。地域福祉の理解を促進するため予習と復習を行ってください。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 社会保障論 I			担当教員 氏名: 根津 敦			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 現場の具体的なケースを適宜紹介している。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
福祉国家の構築にとって必要な社会保障制度について学ぶ。理論・現状と課題・歴史・制度について理解する。						社会保障の理念・歴史・概念、所得保障制度、医療保障制度、介護保険制度、労働保険制度
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力			社会保障に関する知識を体系的に理解することができる。			
B 専門的技術			社会保障の各種制度を応用し、支援に活かせる能力を習得する。			
C 論理的思考力			社会問題について複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。			
D 問題解決力			社会保障を巡る問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。			
G 倫理観			常にソーシャルワークの価値と倫理を元にして、実践活動を展開できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %		レポート: 80 %		発表: 0 %		実技試験: 0 %
その他: 20 %						
特記事項: 課題に対しテキストからの引用だけでなく、自分なりの見方、考え方に触れてあるものを評価する。その他出席態度を評価。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回レポートを課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜コメントと採点を行い返却する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①はじめに: 現代社会と社会保障				【予習】テキストを読む 【復習】①の復習	【予習】120分 【復習】120分	
②人口動態の変化、経済環境の変化、労働環境の変化				【予習】テキストを読む 【復習】②の復習	【予習】120分 【復習】120分	
③社会保障の概念、社会保障の役割と意義、社会保障の理念、社会保障の対象				【予習】テキストを読む 【復習】③の復習	【予習】120分 【復習】120分	
④社会保障制度の展開				【予習】テキストを読む 【復習】④の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑤社会保障の財政				【予習】テキストを読む 【復習】⑤の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑥社会保障給付費・内訳・動向				【予習】テキストを読む 【復習】⑥の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑦社会保障と経済(1)				【予習】テキストを読む 【復習】⑦の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑧社会保障と経済(2)				【予習】テキストを読む 【復習】⑧の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑨社会保障制度の体系				【予習】テキストを読む 【復習】⑨の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑩医療保険制度の概要(1)				【予習】テキストを読む 【復習】⑩の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑪医療保険制度の概要(2)				【予習】テキストを読む 【復習】⑪の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑫医療保険制度の概要(3)				【予習】テキストを読む 【復習】⑫の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑬介護保険制度の概要(1)				【予習】テキストを読む 【復習】⑬の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑭介護保険制度の概要(2)				【予習】テキストを読む 【復習】⑭の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑮介護保険制度の概要(3)				【予習】テキストを読む 【復習】⑮の復習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 最新・社会福祉士養成講座「共通科目」⑦『社会保障』、編集委員: 金子克充・西村淳・平岡公一、中央法規 978-4-8058-8237-5				その他参考文献など: 厚生労働白書、福祉六法		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布資料とテキストを中心にして、講義を進めます。わからない点、疑問に思った点、いつでも講師に相談をしてください。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 保健医療サービス			担当教員 氏名: 中村 尚紀						
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
2	2年次 前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			保健医療領域の特性を理解するため、医療現場の実情や多職種との専門性について実践例踏まえながら学びを深める。						
授業科目の学習教育目標の概要:			キーワード						
相談援助時に活用する医療保険制度や保健医療サービスについて知る。また、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際について学び、多職種との協働のあり方を考える。			保健 保険 医療 病院 公衆衛生 退院支援 ヘルスプロモーション						
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (短短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 9					
A 知識・理解力	保健医療サービスの歴史的背景や知識を理解する								
B 専門的技術	保健医療サービスを多角的な視点から捉えられる知識を身につける								
C 論理的思考力	公衆衛生等の知識を用いて保健医療サービスについて説明出来る力を養う								
D 問題解決力	社会問題と保健医療サービスの知識を照らし合わせながら問題解決の力を身につける								
G 倫理観	保健医療サービスの概念を理解し、倫理観を身につける								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	10 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: 「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワーク、プレゼンテーションを行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは毎回提示、中間レポートは第7回目、期末はレポート別に定めた日時に実施。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートと中間レポートと期末レポートはABCD評価で採点し返却する。									
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)							
		学習内容	学習に必要な時間(分)						
①保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 保健医療サービスとその構成要素		【予習】教科書第1章第1節の保健医療サービスとその構成要素を読む。 【復習】教科書第1章第1節の保健医療サービスとその構成要素をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
②保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 戦後の保健医療サービスの整備・拡充		【予習】教科書第1章第2節の戦後の保健医療サービスの整備・拡充を読む。 【復習】教科書第1章第2節の戦後の保健医療サービスの整備・拡充をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
③保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題		【予習】教科書第1章第3節の医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題を読む。 【復習】教科書第1章第3節の医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
④保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士		【予習】教科書第1章第4節の医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士を読む。 【復習】教科書第1章第4節の医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
⑤保健医療サービスを提供する施設とシステム 医療法による医療施設の機能・類型		【予習】教科書第2章第1節の医療法による医療施設の機能・類型を読む。 【復習】教科書第2章第1節の医療法による医療施設の機能・類型をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
⑥保健医療サービスを提供する施設とシステム 保健医療政策による医療施設の機能・類型		【予習】教科書第2章第2節の保健医療政策による医療施設の機能・類型を読む。 【復習】教科書第2章第2節の保健医療政策による医療施設の機能・類型をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
⑦保健医療サービスを提供する施設とシステム 地域包括ケアシステムと在宅医療		【予習】教科書第2章第3節の地域包括ケアシステムと在宅医療を読む。 【復習】教科書第2章第3節の地域包括ケアシステムと在宅医療をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
⑧保健医療サービスを提供する施設とシステム 診療報酬における医療施設の機能・類型		【予習】教科書第2章第4節の診療報酬における医療施設の機能・類型を読む。 【復習】教科書第2章第4節の診療報酬における医療施設の機能・類型をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
⑨保健医療サービスを提供する施設とシステム 介護保険における施設等の機能・類型		【予習】教科書第2章第5節の介護保険における施設等の機能・類型を読む。 【復習】教科書第2章第5節の介護保険における施設等の機能・類型をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
⑩保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割		【予習】教科書第3章の保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割を読む。 【復習】教科書第3章の保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
⑪保健医療サービスの専門職の役割		【予習】教科書第4章の保健医療サービスの専門職の役割を読む。 【復習】教科書第4章の保健医療サービスの専門職の役割をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
⑫保健医療サービスの提供と経済的保障		【予習】教科書第5章の保健医療サービスの提供と経済的保障を読む。 【復習】教科書第5章の保健医療サービスの提供と経済的保障をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
⑬保健医療サービスにおける専門職の連携と実践		【予習】教科書第6章の保健医療サービスにおける専門職の連携と実践を読む。 【復習】教科書第6章の保健医療サービスにおける専門職の連携と実践をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
⑭保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践		【予習】教科書第7章の保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践を読む。 【復習】教科書第7章の保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践をレポートでまとめる。	【予習】120分	【復習】120分					
⑮まとめ		【予習】教科書第1章から第7章を読み保健医療サービスの全体を復習する。	【予習】240分						
使用テキスト: 新・社会福祉士養成講座 17 第5版 保健医療サービス(中央法規)ISBN978-4-8058-5432-7			その他参考文献など: よくわかる医療福祉-保健医療ソーシャルワーカー(ミネルヴァ書房)						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 保健医療サービスの基礎や多職種連携の方法を学んでいきます。保健医療サービスの理解を促進するため予習と復習を行ってください。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 権利擁護と成年後見制度			担当教員 氏名: 穴倉 明子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(選択必修)
実務経験を用いてどのよう権利擁護センターばあとなあ富山の会員として成年後見活動を行っています。成年後見制度について被後見人等のような授業を行っているか: 権利擁護の在り方や関係機関・多職種チームによる支援、司法との連携について具体的、实际的に学習をします。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
<ul style="list-style-type: none"> 相談援助活動と関連する法を理解する。 相談援助活動において必要となる成年後見制度について理解する。 成年後見活動の実際について理解する。 						権利擁護 成年後見制度 日常生活自立支援事業
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 8. 9.	
A 知識・理解力			法律の知識や権利擁護の制度を総合的に理解することができる。			
B 専門的技術			権利擁護活動を具体的に理解することができる。			
D 問題解決力			事例を通して問題を解決する力を身につけることができる。			
G 倫理観			法制度を学ぶことで倫理観を醸成する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 40 %		発表: %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項: 課題の論点整理と自己の見方、考え方を評価する。その他は出席態度を評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: テストは別に定めた日時で実施する。8回目と最後の講義時にレポート提出。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題に対する論点の確認を行う。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①相談援助活動と法 DVD視聴				【予習】教科書第1章第1節を読む 【復習】①の復習	【予習】120分 【復習】120分	
②日本国憲法 行政法				【予習】教科書第1章第2節、第3節を読む 【復習】②の復習	【予習】120分 【復習】120分	
③民法				【予習】教科書第1章第4節を読む 【復習】③の復習	【予習】120分 【復習】120分	
④成年後見制度				【予習】教科書第2章第1節～第3節を読む 【復習】④の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑤成年後見制度				【予習】教科書第2章第4節～第7節を読む 【復習】⑤の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑥日常生活自立支援事業 成年後見制度利用支援事業				【予習】教科書第3章～第4章を読む 【復習】⑥の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑦権利擁護にかかわる組織・団体				【予習】教科書第5章を読む 【復習】⑦の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑧権利擁護にかかわる専門職の役割				【予習】教科書第6章を読む 【復習】⑧の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑨成年後見活動の実際 その1				【予習】教科書第7章第1節、第2節を読む 【復習】⑨の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑩成年後見活動の実際 その2				【予習】教科書第7章第3節、第4節を読む 【復習】⑩の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑪権利擁護活動の実際 その1				【予習】教科書第8章第1節～第3節を読む 【復習】⑪の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑫権利擁護活動の実際 その2				【予習】教科書第8章第4節～第6節を読む 【復習】⑫の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑬障害者ケアマネジメントにおける権利擁護 ケーススタディ				【予習】事前に配布する資料を読む 【復習】⑬の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑭高齢者ケアマネジメントにおける権利擁護 ケーススタディ				【予習】事前に配布する資料を読む 【復習】⑭の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑮振り返り ～社会福祉士会の取り組み～				【予習】テキスト全体の復習 【復習】⑮の復習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 新・社会福祉士養成講座19「権利擁護と成年後見制度」第4版 (中央法規) ISBN978-4-8058-3936-2				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): テキストを中心に進めていきますが、講義後半では事例を通じて成年後見活動の実際について学び、権利擁護の理解を深めていきます。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 相談援助演習Ⅲ			担当教員 氏名: 鷹西 恒、松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどの社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支 ような授業を行っている。援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践 的に理解する。また、地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評 価等の仕組みや、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程 を実践的に理解する。					地域課題、地域アセスメント、ニーズ把握、 地域福祉の計画、組織化、社会資源、 マイクロ・メゾ・マクロ
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		ソーシャルワークに必要な知識と技術を、理論化し体系立てることができる。			
C 論理的思考力		利用者の抱える問題を、複眼的論理的に分析できる。			
D 問題解決力		適切な支援方法を用いて解決策を考えることができる。			
G 倫理観		ソーシャルワーカーの価値規範を理解し論理的判断能力を養う。			
H コミュニケーション力		ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 40 %	発表: 40 %	実技試験:	% その他: 20 %
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他と は授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。 アクティブラーニングの一環としてグループワークや発表を行う。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①オリエンテーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
②地域の特性の理解			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
③地域アセスメント			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
④地域のニーズの把握			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
⑤地域福祉の計画、プレゼンテーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
⑥社会資源の活用・調整・開発			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
⑦サービスの評価			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
⑧アウトリーチ			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
⑨チームアプローチ			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
⑩ネットワーキング			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
⑪コーディネート			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
⑫ネゴシエーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
⑬ファシリテーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
⑭ソーシャルアクション			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
⑮授業のまとめと振り返り			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 福祉小六法 978-4-8058-3925-6 現代社会福祉用語の基礎知識 978-4-7620-2174-9				その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 相談援助実習指導Ⅲ			担当教員 氏名: 鷹西 恒、松尾 祐子、中村 尚紀						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 相談援助実習に向けて、各領域のソーシャルワークの特徴を踏まえた授業を行う									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について体得し、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。相談援助実習は180時間以上の実習時間とし、2年次の7月頃に行うこととしている。						相談援助知識と技術、実習へ向けての心構え			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力	実習する分野についての知識と実習施設についての理解をすることができる。								
B 専門的技術	実習する分野における当事者理解や援助技術を進めることができる。								
E 自己管理能力	実習に関する提出物や施設への調整連絡などの実習業務管理ができる。								
G 倫理観	実習現場に置いてソーシャルワークの価値と倫理に従って行動できる。								
H コミュニケーション力	実習における利用者や施設職員や実習指導者と適切なコミュニケーションを実践できる。								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 上記「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワーク、プレゼンテーションを行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 実習終了後に実習報告書を提出し、実習の報告会を行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価を付けてレポートを返却する。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容	学習に必要な時間(分)					
①オリエンテーション 実習計画書作成と事前訪問の方法など			【予習】教科書第4章3、第5章1・2を読む。 【復習】教科書第4章3、第5章1・2をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
②実習計画書作成と課題学習(グループ学習)Ⅰ(実習生、指導者、教員の三者協議を踏まえた計画とする)			【予習】教科書第5章3を読む。 【復習】教科書第5章3をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
③実習計画書作成と課題学習(グループ学習)Ⅱ			【予習】教科書第4章11、第5章4を読む。 【復習】教科書第4章11、第5章4をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
④実習計画書作成と課題学習(グループ学習)Ⅲ			【予習】教科書第4章2、第5章5・6を読む。 【復習】教科書第4章2、第5章5・6をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
⑤事例検討(グループ学習)Ⅰ			【予習】教科書第6章1を読む。 【復習】教科書第6章1をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
⑥事例検討(グループ学習)Ⅱ			【予習】教科書第6章2を読む。 【復習】教科書第6章2をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
⑦実習先で行われる相談援助に係る知識と技術に関する理解Ⅰ			【予習】教科書第7章1を読む。 【復習】教科書第7章1をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
⑧実習先で行われる相談援助に係る知識と技術に関する理解Ⅱ			【予習】教科書第7章3を読む。 【復習】教科書第7章3をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
⑨実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解(個人情報保護法の理解を含む)			【予習】教科書第7章2を読む。 【復習】教科書第7章2をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
⑩「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解			【予習】教科書第9章を読む。 【復習】教科書第9章をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
⑪現場実習Ⅱ直前オリエンテーション(諸注意など)			【予習】教科書第7章4を読む。 【復習】教科書第7章4をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
⑫報告書作成と事後学習(グループ学習)Ⅰ スーパービジョン			【予習】教科書第10章を読む。 【復習】教科書第10章をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
⑬報告書作成と事後学習(グループ学習)Ⅱ			【予習】教科書第11章を読む。 【復習】教科書第11章をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
⑭報告書作成と事後学習(グループ学習)Ⅲ			【予習】教科書第12章を読む。 【復習】教科書第12章をノートにまとめる。教員毎の個別課題に取り組み				【予習】30分 【復習】30分		
⑮相談援助実習報告会とまとめ(自己評価を含む)			【復習】教科書第4～12章の全体を復習し、報告書にまとめる				【復習】60分		
使用テキスト: 福祉小六法、中央法規、大阪ボランティア協会、ISBN978-4-8058-5611-6、成清美治、現代社会福祉用語の基礎知識 学文社、ISBN978-4-7620-2540-2、実習実施要綱、「社会福祉士シリーズ22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂、ISBN978-4-335-61189-6(テキストは1年次に購入したものを使用する)その他適宜資料を配布する。			その他参考文献など:						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 原則として全授業に出席すること。実習終了後の実習報告レポートを締め切りを守って提出をしなければ、本単位は認定されない。十分な覚悟の上履修してほしい。尚、相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱの単位を取得していないものは、履修できない。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 相談援助実習				担当教員 氏名: 鷹西 恒、松尾 祐子、中村 尚紀					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
4	2年次	前期	専門科目	実習	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			実習機関の機能に沿って、各領域の社会福祉の役割の理解を深める						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
社会福祉の実践現場で、相談援助活動に係る知識と技術の基本を学ぶことを目的とする。相談援助実習指導Ⅰ～Ⅲで行われる実習の事前・事後の学習と合わせて、社会福祉への理解を確かなものとしてほしい。					現場実習、実習計画書・記録・報告書等の書き方、報告会				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10					
B 専門的技術	ソーシャルワークの専門技術を実習現場で活かすことができる。								
E 自己管理能力	事前学習、実習中の実習ノートの作成と提出、報告書の作成提出を適切に行う。								
F チームワーク・リーダーシップ	実習現場の職員との連携等を行うことができる。								
G 倫理観	ソーシャルワークの価値と倫理を元にした援助を実施できる。								
H コミュニケーション力	実習現場において、利用者やその家族、職員等とのコミュニケーションを実践できる。								
成績評価の方法・基準: 実習配属先での評価や実習記録等から総合的に判断する。									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項:									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 7月上旬～8月上旬。180時間以上・25日以上 ※配属先の事情により時期が異なる場合がある。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習評価票(コピー)の返却とスーパービジョンを行う。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
・配属先の施設・機関のプログラムにそって、180時間以上・25日以上の実習を行う。				分野別の指導内容によって異なる	{予習}60分 {復習}60分				
・この間担当教員による巡回指導が行われる。				実習場所の指示に従って学習を行う	{予習}60分 {復習}60分				
使用テキスト: 福祉小六法、中央法規、大阪ボランティア協会、ISBN978-4-8058-5611-6、成清美治、現代社会福祉用語の基礎知識 学文社、ISBN978-4-7620-2540-2、実習実施要綱、「社会福祉士シリーズ22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂、ISBN978-4-335-61189-6その他適宜資料を配布する。									
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習は社会福祉の利用者の生活の場で行われる。このことを十分認識した上で臨んでほしい。実習は通勤または宿泊の形式で行い、配属先は学生の希望分野等を参考に教員が決定する(原則として)。									
その他参考文献など:									

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 医療・精神科ソーシャルワーク論				担当教員 氏名: 中村 尚紀					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択				
実務経験を用いてどのよ社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支うな授業を行っているか: 援方法を学ぶ授業を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
医療・精神科分野のソーシャルワークについて、歴史から現在の課題を理解する。また、ソーシャルワークの価値・倫理・視点や社会資源、面接に必要な基本的な技法・技能を身につけることを目標とする。					医療・精神科ソーシャルワーク、価値・倫理、視点、連携・協働、社会資源、ケアマネジメント、リカバリー				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短短マトリクスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			医療・精神科ソーシャルワークに必要な知識や理論を理解する。						
B 専門的技術			面接に必要な基本的な技法を身につける。						
C 論理的思考力			医療・精神科ソーシャルワークの歴史を理解し、現在の課題を考える。						
D 問題解決力			クライアントのニーズを捉え問題を整理し、解決策を考えることができる。						
G 倫理観			専門職として支援に必要な倫理観を身につける。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: その他として、授業に対する参加度や態度を含む。また、レポートは毎回の感想(出席カード)を含む本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワーク・プレゼンテーションを行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは毎回提示、中間レポートは第7回目、期末レポートは									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートにコメントと評価をつけて返却する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①医療ソーシャルワークとは				【予習】医療ソーシャルワーカーの業務指針を調べ読んでくる。 【復習】配布資料1をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
②医療ソーシャルワークの歴史、価値・倫理・視点				【予習】事前配布した資料2を読んでくる。 【復習】資料2をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
③保健医療めぐる動向、医療機関の機能とソーシャルワーク				【予習】事前配布した資料3を読んでくる。 【復習】資料3をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
④医療ソーシャルワークの業務指針、連携・協働				【予習】事前配布した資料4を読んでくる。 【復習】資料4をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
⑤急性期病院、在宅医療での医療ソーシャルワーク				【予習】事前配布した資料5を読んでくる。 【復習】資料5をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
⑥回復期リハビリ病棟、地域包括ケア病棟での医療ソーシャルワーク				【予習】事前配布した資料6を読んでくる。 【復習】資料6をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
⑦療養型病院と介護老人保健施設での医療ソーシャルワーク				【予習】事前配布した資料7を読んでくる。 【復習】資料7をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
⑧精神科ソーシャルワークとは				【予習】事前配布した資料8を読んでくる。 【復習】資料1～8をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
⑨精神科ソーシャルワークの歴史と現在の課題				【予習】精神障害について調べる。 【復習】資料2をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
⑩精神障害の生活				【予習】事前配布した資料9を読んでくる。 【復習】資料9をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
⑪統合失調症の関わり方				【予習】事前配布した資料4を読んでくる。 【復習】資料4をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
⑫不安障害等の関わり方				【予習】事前配布した資料5を読んでくる。 【復習】資料5をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
⑬発達障害等の関わり方				【予習】事前配布した資料6を読んでくる。 【復習】資料6をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
⑭精神障害者の就労支援				【予習】事前配布した資料7を読んでくる。 【復習】資料7をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分				
⑮多職種連携の構築方法				【予習】事前配布した資料8を読んでくる。	【予習】120分 【復習】120分				
使用テキスト: プリントを使用します。				その他参考文献など: 『これがMSWの現場です』菊池かほる『コメディカルスタッフのための精神障害Q&A』藤本豊					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布する資料等は自分でファイルし、授業の時に持参してください。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 臨床美術の実践 I			担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	演習	選択	臨床美術士4級
実務経験を用いてどのよ臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として福祉施設での臨床美術の実践経験を生かし、造形素材の うな授業を行っているか: 理解やアートプログラムの実践力の向上、福祉施設でのアート活動の実施に向けて授業を行っている。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共に、 それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。					・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. . 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力	右脳の活性化と認知症について理解することができる。					
B 専門的技術	状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。					
D 問題解決力	「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分 析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。					
F チームワーク・リーダーシップ	リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。					
H コミュニケーション力	造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感で き、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %	レポート: 30 %	発表: 30 %	実技試験: 30 %	その他: 10 %		
特記事項: 特記事項: ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。 アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習</u> 、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表・実技は毎時間毎に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題提出時に振り返りのコメントを伝える。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①【岡野】授業ガイダンス			4月12日			
②【北澤】臨床美術基幹Ⅱ「臨床美術研究成果」			4月19日	【復習】授業内容のテキストを熟読	30分	
③【北澤】臨床美術アートプログラム制作「思い出の空」			4月19日	【復習】制作の感想・水彩の使い心地を 記入	60分	
④【岡野】臨床美術アートプログラム制作「土偶」			4月26日	準備物: 4~5cmの石1個		
⑤【岡野】臨床美術アートプログラム制作「石のアナログ画」			4月26日	準備物: こぶし大の石1個		
⑥【北澤】臨床美術アートプログラム制作「アジの干物を描く」①			5月10日	【復習】制作の感想・アクリル絵具 の使用について	60分	
⑦【北澤】臨床美術アートプログラム制作「アジの干物を描く」②			5月10日	【復習】ミクストメディアを含む制作 の感想を記入	60分	
⑧【岡野】臨床美術学演習 「つまづき、ルービンの壺、純粹輪郭画、修正輪郭画」			5月17日	【予習】フォルメツ、フリー実習(計画 書) 準備物: 鉛筆(2B、4B)3本 【復習】演習を振り返る	【予習】90分 【復習】60分	
⑨【岡野】臨床美術学演習「白と黒の魔術、右脳の見方、きみ子方式」			5月17日	【予習】クレーの模写	120分	
⑩【北澤】臨床美術教材研究「共同制作」			5月24日			
⑪【岡野・北澤】アートプログラム実践演習「感情のアナログ画ロールプレ イング」①			5月31日			
⑫【岡野・北澤】アートプログラム実践演習「感情のアナログ画ロールプレ イング」②			5月31日			
⑬【北澤】臨床美術教材研究「アートプログラムにおける造形素材」			6月7日	【復習】造形素材の探索	120分	
使用テキスト: 使用テキスト: 『臨床美術士養成講座4級』, 芸術造形研究 所 『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』, 芸術造形研究所				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「臨床美術」の単位を取得し、臨床美術士4級取得について担当教員と相談の上、受講 することができます。4月13日の授業ガイダンスで授業の内容と日程について説明します。受講者は欠席しないようにしてください。 本科目は2コマ続けて行う授業になります。また開講日も不規則なため、授業日をよく確認してください。 ※本科目は事前課題が多い科目です。課題の提出日を常に確認してください。提出日直前に事前学習では対応できませんので、毎回 計画的に進めるようにしてください。(事前・事後学習課題の欄には提出日のみを記載してあります。)						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 表現アート演習Ⅱ			担当教員 氏名: 北澤 晃						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのよ アートプログラムを用いた意味生成ケアの現場実践(臨床美術士としての実務経験)にもとづいて、様々な状 うな授業を行っているか: 況・状態の方々に、アートに触れることでの多幸感を味わうことができるように視点の提供をする。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
他者とのコミュニケーションの場において、様々なアートプログラムに取り組み楽しむ。主 に色鉛筆やオイルパステルなどの描材を用いたプログラムを体験し、意味生成の表現を 捉えなおしつつ、ケアとしての表現を考え、実践する態度を養う。					・アートプログラム・脳の活性化 ・「つくり、つくりかえ、つくる」(意味生成) ・ コミュニケーション ・他者理解 ・存在論的人間観・ナラティブ				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8.				
A 知識・理解力			アートプログラムの成り立ちを理解する。						
B 専門的技術			色鉛筆・オイルパステルを中心画材として楽しんで表現する。						
D 問題解決力			意味生成の表現を捉えなおしつつ、ケアとしての表現について考える。						
H コミュニケーション力			他者の表現への理解を深め、メッセージ力を高める。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: アクティブラーニングによる学びを重視することから、現場実践のロールプレイングを通して、実践的に学ぶ。『レポート 7 0%』は、各課題の学びをまとめたファイル(ポートフォリオ)である。『発表 30%』は、各回の授業等における各自の振り返りのコメントで ある。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各プログラムごとに学びを整理・記録したファイルを作成し⑬の授業にて提出。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の授業においてコメントする。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な 時間(分)				
①【ガイダンス】学習目標、学習内容、アートプログラムについて				振り返りとポートフォリオ作成	30				
②アートプログラム7演習				振り返りとポートフォリオ作成	30				
③アートプログラム7演習の振り返り				振り返りとポートフォリオ作成	30				
④アートプログラム8演習				振り返りとポートフォリオ作成	30				
⑤アートプログラム8演習の振り返り				振り返りとポートフォリオ作成	30				
⑥アートプログラム9演習				振り返りとポートフォリオ作成	30				
⑦アートプログラム9演習の振り返り				振り返りとポートフォリオ作成	30				
⑧アートプログラム10演習				振り返りとポートフォリオ作成	30				
⑨アートプログラム10演習の振り返り				振り返りとポートフォリオ作成	30				
⑩アートプログラム11演習				振り返りとポートフォリオ作成	30				
⑪アートプログラム11演習の振り返り				振り返りとポートフォリオ作成	30				
⑫アートプログラム12演習				振り返りとポートフォリオ作成	30				
⑬アートプログラム12演習の振り返り				振り返りとポートフォリオ作成	30				
⑭自己の学びの総括Ⅰ部(発表)				振り返りとポートフォリオ作成	30				
⑮自己の学びの総括Ⅱ部(発表)				振り返りとポートフォリオ作成	30				
使用テキスト: 特に設定しない。				その他参考文献など: 特に設定しない。					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 【準備品】スケッチブック、18色の色鉛筆と臨床美術専用オイルパステルを購入する。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: カウンセリング基礎演習			担当教員 氏名: 石黒 真弓						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			心療内科や学校、施設でのカウンセリング経験を基に事例を検討します。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
カウンセリング基礎理論で身に付けた知識をロールプレイングなどで実際に体験します。					対人関係・受容				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 10				
C 論理的思考力			知識を生かし、日常生活で起こりうる場面において活用できるよう道筋をたてて考えます。						
D 問題解決力			クライアントが抱える問題について、適切に関わり問題解決に努めます。						
F チームワーク・リーダーシップ			集団内での行動に着目し、集団内での自身の役割について考えます。						
G 倫理観			自らを律しつつ、人権尊重の倫理観に基づいて他者を理解する。						
H コミュニケーション力			言語および非言語でさまざまな人との人間関係を広めます。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	30 %
特記事項: 事例を基にカウンセリングをどう進めるか、様々な理論を基にグループで検討し理解を深めます。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第1回目の授業時に説明します									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメントを書いて返却します。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①自己理解、他者理解				「理解」とはどういうことか整理する			60分		
②カウンセリングテクニック1				2つの技法を使い分ける			60分		
③カウンセリングテクニック2				4つの技法を使い分ける			60分		
④カウンセリングテクニック3				6つの技法を使い分ける			60分		
⑤カウンセリングテクニック4				8つの技法を使い分ける			60分		
⑥演習1				各技法を説明できるようになる			60分		
⑦演習2				適切な技法を選び理由を考える			60分		
⑧個人カウンセリングと集団カウンセリング				集団カウンセリングについて個別とのちがいを整理			60分		
⑨グループエンカウンター1				エンカウンターの特徴をまとめる			60分		
⑩グループエンカウンター2				エンカウンターの目的をまとめる			60分		
⑪グループエンカウンター3				エンカウンターの効果をまとめる			60分		
⑫集団カウンセリング実施計画				計画をたて準備する			60分		
⑬集団カウンセリング計画発表1				計画通りだったかふり返る			60分		
⑭集団カウンセリング計画発表2				計画通りだったかふり返る			60分		
⑮まとめ				カウンセリングのながれを整理する			60分		
使用テキスト:				その他参考文献など: カウンセリングテクニック入門					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この科目の受講には、1年後期の「カウンセリング基礎理論」の単位修得が必要です。									

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 心理アセスメント基礎実習				担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 心理臨床の実務経験に基づき、心理アセスメントの基礎技術を実践的に修得するための実習を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
福祉施設、医療、児童相談、教育相談等の現場において、利用者を客観的かつ根拠をもって理解するために、心理アセスメントは必須の技術である。心理アセスメントを実施するための基礎的技術および報告書を理解するための基礎的知識について実践的に学ぶ。						知能検査、脳機能検査、性格検査、テスト・バッテリー、アセスメント			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 9.				
A 知識・理解力			心理アセスメントの基礎知識を身に付けている。						
B 専門的技術			心理アセスメントの基礎的技術を習得している。						
E 自己管理能力			自己を客観的に理解し、自己管理に役立てられる。						
G 倫理観			心理アセスメントにおける倫理を守りながら、利用者を理解していくことができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: レポート(40×2)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート提出は第8回および第15回に実施する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と期末にフィードバックする。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①心理アセスメント実習の進め方、注意事項、報告書の作成方法等についてのガイダンス				心理アセスメントにおける倫理についてまとめる	30				
②認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成1				ビネー式知能検査、ウェクスラー式知能検査、長谷川式簡易知能評価スケールを、履修学生に割り当て、全ての検査について実践し、報告書を作成する。	実習と振り返り(ビネー式)	30			
③認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成2					実習と振り返り(ビネー式)	30			
④認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成3					実習と振り返り(ウェクスラー式)	30			
⑤認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成4					実習と振り返り(ウェクスラー式)	30			
⑥認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成5					実習と振り返り(HDS-R)	30			
⑦認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成6					実習と振り返り(HDS-R)	30			
⑧認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成7					知能検査の報告書作成	180			
⑨人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成1					性格検査の中から3つ選び、検査バッテリーを構成し、実践し、報告書にまとめる。	実習と振り返り(性格検査①)	30		
⑩人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成2						実習と振り返り(性格検査①)	30		
⑪人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成3						実習と振り返り(性格検査②)	30		
⑫人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成4						実習と振り返り(性格検査②)	30		
⑬人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成5						実習と振り返り(性格検査③)	30		
⑭人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成6						実習と振り返り(性格検査③)	30		
⑮人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成7						性格検査の報告書作成	240		
使用テキスト: テキスト不要。必要な資料・検査用具等は授業時に配布または貸し出します。					その他参考文献など: 岡堂哲雄(編)臨床心理学全書第2巻 臨床心理査定学[誠心書房]				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各種心理検査を行い、人を総合的にアセスメントするための技術の基礎を学ぶ実践的科目です。福祉や心理における倫理規定は常に意識し、必ず守るようにしてください。実践的なアクティブラーニングで学びます。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 発達心理学			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのよ心理臨床の実務経験に基づき、人間の生涯発達について解説するとともに、発達と関連する障害や疾患うな授業を行っているか: についても理解できるように授業構成を行っている。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
人は誕生してから亡くなる時まで、遺伝的要因と環境的要因からの相互作用を受けながら、常に変化を続ける。すなわち生涯にわたる発達の縦軸と関連付けること無しには、「個人」の理解はありえない。生涯発達の基礎的知識を学ぶ。					遺伝と環境、生涯発達、発達段階、発達と支援、認知症	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6.	
A 知識・理解力			発達心理学の基礎知識を身に付けている。			
C 論理的思考力			人間の行動や心理を発達の観点で意味づけながら、科学的に理解できる。			
E 自己管理能力			生涯発達の縦軸に自らを位置づけて、自らを理解し、律することができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %		レポート: 40 %		発表: %	実技試験: %	その他: 20 %
特記事項: レポート(40%)、期末試験(40%)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート提出は第8回、期末試験は別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と期末にフィードバックする。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
① 遺伝と環境および発達の基礎概念			遺伝と環境について調べる		30	
② 発達段階の理論			主な発達理論を調べる		60	
③ 乳児期の心理的発達			乳児期の特徴について調べる		60	
④ 幼児前期の心理的発達			幼児前期の特徴について調べる		60	
⑤ 幼児後期の心理的発達			幼児後期の特徴について調べる		60	
⑥ 児童期の心理的発達			児童期の特徴について調べる		60	
⑦ 青年期の心理的発達および発達と関連する障害			青年期の特徴について調べる		60	
⑧ 成人期の心理的発達			テキストⅠ・Ⅱ章		60	
⑨ 高齢期: 家族との関係			テキストⅢ章		60	
⑩ 高齢期: 仕事・社会との関係			テキストⅣ章		60	
⑪ 高齢期の心理的問題			テキストⅤ章		60	
⑫ サクセスフル・エイジング			テキストⅤ章		60	
⑬ 認知症の理解と支援Ⅰ: アセスメントの技法			テキストⅥ章		60	
⑭ 認知症の理解と支援Ⅱ: BPSDへの対応			テキストⅥ章		60	
⑮ まとめ			総復習をしておく		120	
使用テキスト: シリーズ生涯発達心理学⑤ エピソードでつかむ 老年心理学、大川一郎・土田宣明・宇都宮博・日下菜穂子・奥村由美子(編著)、ミネルヴァ書房、ISBN978-4-623-05895-2			その他参考文献など: 塚野州一(編)みるよむ生涯発達心理学—バリアフリー時代の課題と援助—[北大路書房]			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 乳幼児から高齢者まで、「個人」を理解しようとするときに発達の観点から関連付けることは、きわめて重要です。なぜなら人は常に成長・変化し続けるものだからです。必要資料は適宜、追加配布しますが、図書館等できちんと予習しておいてください。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 人格心理学			担当教員 氏名: 石黒 真弓			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			心療内科や学校、企業でのカウンセリング経験を基に人格について事例を紹介します。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
他者を支援するためには、相手が何を感じ、どう考え、どんな行動傾向があるのか、つまり、相手の人格(パーソナリティ)を理解する必要がある。同様に援助者としての自分自身について理解を深めることも重要である。本授業では、他者と自分自身の人格を理解するための枠組み(理論)を習得することが目的である。					人格(パーソナリティ)、自己理解、他者理解、気分・感情、認知、行動	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 5. 6. 7. 9.	
A 知識・理解力	人格心理学の概要と様々な人格理論を理解し、人の心理に関する理解を深める					
C 論理的思考力	人格理解に関する枠組みを習得し、他者および自分自身の理解に活かす					
E 自己管理能力	人格について学ぶことで自己覚知の実践力を高める。					
G 倫理観	人間について学ぶことで倫理観を高める。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: 人格心理学の内容を理解した上で、グループに分かれ自分のテーマを設定しプレゼンします。						
アクティブラーニング要素: (課題解決型学習) ディスカッション、ディベート (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第1回目の授業時に説明します						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメントを書いて返却します。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①人格(パーソナリティ)とは?				【復習】①の復習	60	
②人格心理学の代表的な理論				【復習】②の復習	60	
③人格(パーソナリティ)の測定方法				【復習】③の復習	60	
④人格(パーソナリティ)の発達的变化 I				【復習】④の復習	60	
⑤人格(パーソナリティ)の発達的变化 II				【復習】⑤の復習	60	
⑥人格(パーソナリティ)の生物学と脳科学 I				【復習】⑥の復習	60	
⑦人格(パーソナリティ)の生物学と脳科学 II				【復習】⑦の復習	60	
⑧まとめ				【復習】①～⑦の復習	120	
⑨感情と人格(パーソナリティ)				【復習】⑨の復習	60	
⑩認知と人格(パーソナリティ)				【復習】⑩の復習	60	
⑪思考と人格(パーソナリティ)				【復習】⑪の復習	60	
⑫社会文化と人格(パーソナリティ)				【復習】⑫の復習	60	
⑬他者理解について				【復習】⑬の復習	60	
⑭自己理解について				【復習】⑭の復習	60	
⑮まとめ				【復習】⑨～⑭の復習	120	
使用テキスト: 必要に応じて資料を配布する				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業をしっかりと聞いてください。また、わからないことがあればどんどん質問してください。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 社会心理学			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎						
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
私たちは常に人との関わりの中で生活を送っている。言い換えれば、私たちの行動や心理は常に社会からの影響を受けている。個人と社会の影響過程について、身の回りの日常的問題意識の観点から理解する。					対人関係、リスク管理、意思決定、リーダーシップ				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.				
A 知識・理解力			社会心理学の基礎知識を身に付けている。						
C 論理的思考力			社会の中で生きる人間の行動や心理について、科学的・客観的に理解できる。						
H コミュニケーション力			情報を的確に伝える力や解りやすく説明できる能力を身に付けている。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: 自発的な授業時間外学習および積極的授業参加に基づいて成績評価を行う。クリッカーを用いた双方型授業を行います。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回時に授業の進め方および評価方法を説明します。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 学習到達度を毎回フィードバックする。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①授業概要説明:「社会心理学とは」				社会心理学と他の領域との関係についてまとめる		30			
②自己を知るⅠ:社会的自己				クエス1:社会的自己		180			
③自己を知るⅡ:認知的不協和理論				クエス2:認知的不協和理論		180			
④行為の原因を知るⅠ:原因帰属理論				クエス3:原因帰属理論		180			
⑤行為の原因を知るⅡ:態度				クエス4:態度		180			
⑥「私たち」と「あの人たち」:偏見と差別				クエス5:偏見と差別		180			
⑦個人と集団の利益:社会的ジレンマ				クエス6:社会的ジレンマ		180			
⑧コミュニケーションと自己呈示				クエス7:コミュニケーションと自己呈示		180			
⑨異文化コミュニケーション				クエス8:異文化コミュニケーション		180			
⑩他者への行為Ⅰ:怒りと攻撃				クエス9:怒りと攻撃		180			
⑪他者への行為Ⅱ:援助行動				クエス10:援助行動		180			
⑫集団から個人への影響:ソーシャルインパクトと権威への服従				クエス11:集団からの影響		180			
⑬個人から集団への影響:リーダーシップ				クエス12:リーダーシップ		180			
⑭ヒューマンエラーとリスクマネジメント				クエス13:ヒューマンエラー		180			
⑮社会的公正と集合行動				ボスレベルクエス		180			
使用テキスト: 指定テキストはありません。必要な資料は図書館等で自分で入手してください。				その他参考文献など: ロジャーRホック(編)梶川達也(監訳)心理学を変えた40の研究[ピアソン・エデュケーション]; ローレン・スレイター(著)岩坂彰(訳)心は実験できるか[紀伊国屋書店]					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): クエスト型授業によるアクティブラーニングで学びます。心理学理論は、自分の日常生活と結びつけて理解することで生きた知識となります。ぜひ自発的に学習を行ってください。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: 心理学研究 I			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
自らの問題意識に基づいて、先行研究の知見を調べ、人間の行動や心理に関する研究仮説を立て、研究計画を立案し、プレゼンテーションを行います。この実践を通して、生涯にわたって主体的に学び続ける「私」をつくります。					行動・心理、研究仮説、実験・調査、考察、論文作成、プレゼンテーション・パブリケーション
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力		心理学研究の基礎知識を身に付けている。			
B 専門的技術		人に関わる問題について、心理学的に研究する技術を習得している。			
C 論理的思考力		人間の行動や心理について科学的、客観的に理解できる。			
D 問題解決力		人間の行動や心理に関する問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。			
H コミュニケーション力		自ら学び、考え、得た情報を的確にまとめ、解りやすく人に説明できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	30 %
				実技試験:	%
				その他:	20 %
特記事項: 研究への取り組み態度(20%)、研究計画の作成(50%)、研究計画のプレゼンテーション(30%)に基づいて成績評価を行う。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは第15回に行う。また研究発表については別途行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 研究の進行度に応じて、適宜フィードバックする。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①心理学研究の進め方、研究倫理、注意事項等についてのガイダンス。			研究倫理についてまとめる	30	
②心理学研究の基本: 実験法			実験法についてまとめる	60	
③心理学研究の基本: 調査法			調査法についてまとめる	60	
④心理学研究の基本: サンプリング			サンプリング法についてまとめる	60	
⑤心理学研究の基本: データ分析			データ分析についてまとめる	60	
⑥心理学研究の基本: 図表の作り方とパワーポイント資料の作り方			図表・パワーポイント資料作成の注意点についてまとめる	60	
⑦研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案			特に指定しないが、研究なので、自らテーマ設定をし、資料収集し、データ収集し、考察し、研究計画を作成する	120	
⑧研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案				120	
⑨研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案				120	
⑩研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案				120	
⑪研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案				120	
⑫研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案				120	
⑬研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案				120	
⑭研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、先行研究の収集、研究仮説・研究計画の立案				120	
⑮研究計画書の提出およびプレゼンテーション				240	
使用テキスト: テキストは不要。必要な資料等は、自ら収集してください。			その他参考文献など: 「心理学研究」、「社会心理学研究」、「Journal of Personality and Social Psychology」等の学術雑誌		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 心理学研究法の基本を学びつつ、自ら問題を発見し、研究計画を立案するアクティブラーニングで学びます。後期の「心理学研究Ⅱ」を履修したい人は、必ず履修してください。					